

1978年7月号

昭和53年7月5日発行（毎月1回5日発行）

No.28

あんふあんて

発行人 発行所 ぶんふぶんて出版部
定価 100 せん 振替口座 ぶんふぶんての会



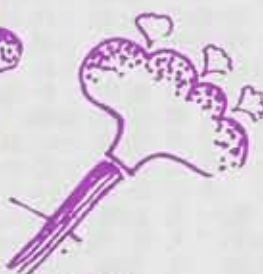
読みっぱなしの新聞をたたみ
空けっぱなしの薬ビンのふたをし
脱ぎっぱなしのセーターをたぐむ

家事がいつのまにか楽しいものになった

お菓子を焼き
小籠や猫を作り

受領証を整理する

あわただしさを楽しんでいられる幸せ
手持ちぶさたにノンビリひたれる幸せ
怒りながらも次の瞬間には
笑いがこぼれることを知っている幸せ
泣顔にその子の未来をみたときの幸せ



従順な女になっているという実感はない
嫌なものはイヤという
どこまで見過ごし
どこまで許し
どこまでゆすり
どこで拒否するか
あれこれ考えず 直感で処理した
夫と子供は出入り自由の私だけの空間
ただ
ただわたしはそれを
針の先でつついてみることは
やめたくないと思っている

（詩） 石田 矢郷
イラスト

グループ編集のページ

＝久我山・鳥山グループ＝
(その1)



我々が共同保育を始めてから1年以上経ちました。成り立ちは永福町グループに40分以上かかって電車通っていた御手洗が、近所で新しく始めようとしたのがきっかけです。7・8月号で我がグループの様子を詳しく報告しますので参考にしたいだったり、又御批判いただけたらと思います。

グループの経過報告

●77年2月中旬、御手洗が世田谷区報で、「わたしたちのグループ」あんふあんてで、共同保育をして余暇を活用しています。とのよびかけをする。電話の問い合わせは50件あまり。

21日 北鳥山地区説明会。6名。御手洗宅。この日より西原参加。
22日 赤堤地区説明会。御手洗出席。
23日 南鳥山地区説明会。御手洗出席。
25日 喜多見地区説明会。御手洗出席。

●3月3日 会合。4名。この日より吉川参加。

11日 南鳥山地区会合。
15日 シュークリーム作り。4名。
22日 公園で会合。3名。今後、共同保育を西原、御手洗、吉川でやろうと確認。
中旬 永福町グループが杉並区報で同じ様なよびかけをする。電話の問い合わせ50件あまり。
29日 杉並の久我山地区説明会。御手洗出席。6名。これより穂田、笠井、矢幅参加。

●4月4日 久我山グループ公園で会合。
11日 久我山グループ小金井公園へ。
15日 久我山 鳥山両グループ合流。今後は会員6名、子供9名でやろうと確認。
20日 公園へ。5名出席。
25日 区立の川のある公園へ。6名出席。

●5月4日 児童館で会合。3名出席。
以上、グループを新しく結成する方々の参考になればと思い、詳しく書いてみました。
5月より、いよいよ週1回の共同保育開始。原則として各家持ち回り。親は誰も外出せず子供を観察。この方法で3回様子を見る。
(4月下旬より御手洗は2ヶ月間不参加。)
30・31日 永福町グループと合同旅行。車4台で狭山湖へ。会員9名。子供9名。
4ヶ月近い準備期間を経て、6月から現在の形の共同保育開始。
▲共同保育の内容▼
毎週月曜日。
11時30分集合。
11時45分外出者外出。



12時から昼食。(弁当持参)
13時から近くの公園へ。(雨の時は、定例会で計画してある工作をする)
15時からおやつ。(多くはお手製のケーキ)
15時45分 外出者帰宅。16時 解散。

▼子供の年齢は6月現在、1歳4ヶ月より3歳10ヶ月。9名(男4名・女5名)
▼距離は南北2km、東西0.5kmの範囲内で、徒歩、又は自転車・自動車を利用。
▼費用は、場所代一家族100円。おやつ代1名50円。

▼子供手帳を各自で作成し、緊急時の連絡先、子供の様子等を書いておき、外出する人は当日の予定、注意等を書いて預ける。子供係はその子の状態を書きとめ、解散の時手渡す。
▼定例会は月末に月の計画をたてる。
▼読書会は月1回。レポーターは交替制。
▼誕生会は9名の子供をグループにわけ年3回実施。
▼旅行は年2回。ピクニックは月1回。
▼ヘルパー制は場所代一家族100円プラス1時間につき1人50円。多い人は毎週、少ない人は月1回程度利用。
▼ノートは共同保育用のノート(後述)を毎回記入。又、別のノートには、雑記帳的に、それぞれが思い思いに記している。

●6月 共同保育4回。会員5名で子供7名。子供係3名に外出者2名。この月からはじめて外出。母親の姿が見えなくなると、10分から40分泣く子供が多い。
定例会はプール 誕生会 読書会の計画。

回。
定例会は9月相模湖合宿の相談。映画『ねむの木』観賞のうちあわせ。

●9月 共同保育2回。他の行事が多いので。今月から通信費として100円徴収。皆が会計と連絡係を交替できるようにした。

12日 お誕生パーティー
7・8・9月生まれの子供3名は招待で、他の月の者3名で準備。12時開始、部屋中を折り紙で飾りつけた中で、ローソクを消し、歌い、プレゼントの本を渡し、お菓子屋さん顔負けの汽車の型をしたケーキを食べ、紙芝居をして16時解散。皆初めてで興奮気味。飾りつけの材料や昼食・おやつを入れて費用は1人480円也。

18・19日 相模湖へ旅行。(11月号に詳しく掲載してあります。)会員全員とつれあい2名参加。自動車係兼子供係でした。
21日 はじめての読書会。五木寛之著『内灘夫人』レポーター 吉川。

定例会はハイキングと忘年会の相談。誕生会と旅行の反省。

●10月 共同保育3回。今月から吉川は身体が調子が悪く、検査にかけ回り欠席が多い。
12日 読書会は『神への告発』レポーター 御手洗。

25日 定例会を兼ね神代植物園へ。皆で手分けして作ったオーブンサンドを持参。会員3名、子供5名、病欠欠席が多い。
30日 笠井が一時間ほど離れた国分寺へ引越の為の送別会。穂田家にて親達が御馳走を

食べて飲む会になり、帰宅は午前様。
定例会はヘルパー制の費用の変更。忘年会の相談。

●11月 共同保育4回。笠井は行事だけ参加。西原は、この月から子供を預ける事にする。(今迄は、親の方が心配で離れられなかったのです。)新しく大久保参加。しかし地域、子供の年齢、スペースの点で無理なので、可能な場合にのみ参加。(例えば公園等)
11日 読書会『椎名麟三著『役役人の告発』レポーター 矢幅。

29日 上野動物園へバンダ見物とピカソ展へ。上野迄は遠かったし電車の混雑もひどくて、皆ぐったり。
定例会はクリスマス会の相談。車で皆を運ぶ事の多い穂田に場合に依り数十円払う事に決定。

●12月 共同保育3回。毎回誰かが風邪の為欠席。親子共々、慣れてきて余裕がでる。
4日 忘年会(横浜元町と中華街)日曜日なので子供を夫に預けて、のんびりとウィンドショッピングと食事。4名参加。

22日 クリスマスパティー
午前中は会員が藤編みを習っているのですが、午後、定例会も兼ねたパーティー。シュークリームを沢山作りケーキの上に飾ったのと恒例のフルーツパンチ。夕方病院へ三軒が急に行くのでヘルパー制でやりくり、大忙しの日。

●78年1月 お正月は東京脱出組も多くて、共同保育は1回。



●7月 共同保育5回。会員6名。子供9名。子供係4名。外出者2名。7月に入って子供達も随分慣れてきて、工作したり、川のある公園で水遊び、庭にプールをだして水着で遊んだりして、大分楽しそうな様子がみえる。
定例会は8月に事務局に共同保育のアンケート集計に行く日の相談をする。

●8月 共同保育5回。旅行が多くて、毎回1・2名欠席。子供係3名。外出者2名。又この夏は、この他に歩いて行けるプールへ数

19日読書会『梅原猛著「隠された十字架」』レポーター 西原。(何と100時間以上の準備とかで皆びっくり、さすがという声)

31日『お誕生パーティー』

12・1月生まれの子供3名を招待。毎回好評の招待状、ゴム風船、パーティーハット、紙芝居、本のプレゼント、そして友人はだしのケーキと食事。部屋中折り紙で飾りました。定例会2月のワインパーティー・3月の鎌倉旅行の相談。

●2月 共同保育3回。土曜に一度やってみたと、外出者2名は化粧も念入りで、各々御主人が車で送迎付きのデートでした。9日読書会『森本哲郎著「明日への旅」』レポーター 穂田。

定例会3月の誕生会と鎌倉旅行の相談。今後場所代を、月2回以上使用する家には、2回目から家族200円払う事に決定。(圧倒的に御手洗宅での会合が多かったのだ)

●3月 共同保育3回。風邪その他の病気の者が多く欠席が多い。又、遊んでいる時に頭にコブをつくるケガが2度あり、後になって病院へつれていって大変叱られ皆で反省。幸いにも異常はありませんでした。6日『お誕生パーティー』

2・3月生まれの子供3名を招待。いつもの様に御馳走と飾りつけとレコードと紙芝居に加えて、五つ子ちゃん誕生パーティーからヒントを得たくす玉が好評で何度もやりました。その後も各家庭では紙吹雪の山で掃除が大変との事です。

『共同保育ノート』より

77年6月6日(月) (吉川宅 吉川記)

子供係 笠井・西原・矢幅・吉川

外出者 穂田

(子供7人)

欠席者 御手洗

……この日、はじめて親子と離れて外出した。……(中略)12時より昼食、穂田外出、御主人アメリカ出張のため、羽田までお見送り。ちゃん、ママが出ていっても、平気な顔。皆といっしょにお弁当。暑さのせいか、ちゃん、一番良く食べたくらいで、男の子は、あまり食をたらなかった。

13時、家の庭で、風船遊び(生憎ひとつしかなかったが)野球遊び、砂遊び、井戸水で水遊び、子供達良く遊ぶが、お互いに遠慮がなくなつたので、ケンカも多くなつた。

「君は、もっぱらひとり遊び。わが家には男の子用のオモチャがいっぱいなので、ちゃん、ちゃんが、よろこんで、男の子にヘンシンし、野球帽にバット、仮面といった、いでたちで駆け回る。

14時 家の中に入る。今日は、工作しないで、子供に、画用紙、折り紙、クレヨンを使って、自由に遊ばせる。3歳児、2歳児は、結構思い通りに、色をぬったり、紙を折ったりするが、1歳児には、親が見ていないとダメ、君が、クレヨンを食べてしまった。共同保育という形をとりはじめると、こういう監督が大変だと思った。特に私の子供達は、物をすぐ口に運ぶなどのくせがなかった

13・14日 鎌倉旅行

会員4名、子供5名で電車利用。子供達は穂田手製のお揃いのクマのリュックをかついで、1日目は海を見て近くを散歩。材木座にある厚生年金の施設を利用。2日目は大仏様と観音様を見て帰宅。余裕のあるスケジュール。(出発前日、御手洗、ちゃん、部屋の中にあるブランコから落ち、頭を2針縫うケガの為欠席。本当に残念でした)

定例会『お花見、フランス料理を食べる会』の相談。実際は、会員や子供の病氣、穂田のシドニー転勤準備、矢幅の引越(何とこのグループに通えるという範囲内でマンションを購入)入園騒ぎ等で全て中止。

●4月 定例会を1回やっただけで他の集まりはなし。穂田のお別れビクニックの相談。メンバーのほとんどの子が通っている絵の教室での友達、越智が参加。アメリカ生まれの2人の子供に友達がなく又、家も近いので、でも年末には又、アメリカ永住になるそうです。これで会員6名、子供9名に。

●5月 共同保育4回。吉川は5月末迄病気で欠席。その他にも毎回誰かが病欠。御手洗は今春入園した。ちゃんの迎えの為、途中で30分あまりぬける。

31日 穂田家が6月から約2年間シドニー転勤になったので、お別れパーティー。ちゃんに民芸の玩具、穂田には皆で手分けして作った刺し子のナプキンと、特別誂えの刺し子のベストをプレゼント。(彼女、感激のあまり涙ぐんでいました。)

ので、やはり注意力が、おそろそかなりがち。(後略)

77年10月31日(月)

(御手洗宅 西原記)

子供係 穂田・西原 (子供6人)

外出者 御手洗・矢幅

欠席者 吉川

(前略)大人2名対子供6名。いつもの1対3には違いないが、今日は殊の外大変だった。その理由を考えてみるに、

①昨日、深夜に及ぶ送別会騒ぎで母親不在故、寝不足気味の不機嫌な子が多かった。

②自転車に、ちゃん、ちゃんが乗ると、ちゃんが後に坐る、それを、ちゃんが嫌がり、ちゃんも、ちゃんをこずきにとんでやってくる。(美わしの姉妹愛ノ)

③ ちゃんと、の自転車取り合い。やっとな番にさせたが、しよつ中、喧嘩をしていた。(この時以来、ちゃんは、「クンきらいノ」と言っている由。)

④手を洗わせたり、おやつを用意が2人だったので大変。

⑤ミルクを3人がこぼした。

その結果

①大声を出してばかりいたので、大人は咽が痛くなり、うがいをしてたりして大変。
② ちゃんを自転車からはぎ取ったら、1日中、冷たい目でみていて、私の近くへ寄ってこなかった。
③ ちゃんに「自転車は皆で仲良く乗らなさいダメノ」と叱ったら急に反抗的になり止めても車の来る道へ走った。(多分、他人にきつく叱られた事がなく、ビックリしたの

定例会『この記事の為に編集会議を6、7月毎週1回集まる事に決定。交流会へ出席した御手洗の報告で他のグループは戸外が多いと聞き今後は、お弁当を公園で食べる事に變更。集まりを会員の家以外でする方向へ、例えば区立の集会所、児童館利用の検討。』

●6月 共同保育4回。この月から、ちゃんの幼稚園での友達鳥野が参加。4歳の女の子と1歳半の男の子。これで会員6名、子供10名となる。又、共同保育を月曜から金曜へ變更。時間も10時から16時とする。編集会議7回(週1度の予定では追いつかず、その上夜遅くまでかかっていた原稿書き、慣れない故、本当に大変でした。)

私の推薦図書

『華やかな魔獣』

平岩弓枝著 角川書店 (鳥野)

『新西洋事情』

深田祐介著 北洋社・新潮社 (越智)

『純粹さのきわみの死』

さいごのシモーヌ・ヴェイユ (西原)

『自分の感受性くらい』

田辺保著 北洋社 (御手洗)

『死の棘』

茨木のり子著 花神社 (矢幅)

『回想の太宰治』

島尾敏雄 新潮社 (吉川)

津島美知子 人文書院

でしよう。母親は、きつく叱つてもそれ以前に信頼関係が出来ているので大丈夫ですが、他人の場合、敵だと思ってしまうかもしれない。(中略)保育に余裕がないと、子供にも余り良い影響を与えない様です。大人もグッタリしますし、今日の場合は安全性の面でも少し心配でした。

78年5月22日(月)

(御手洗宅 越智記)

子供係 越智・御手洗 (子供4人)

外出者 西原

欠席者 穂田・矢幅・吉川

(前略)10時、越智到着、少し過ぎ西原到着。君、少し熱がありそうで検温。ほんの少しだったので西原外出。君はおとなしくお見送り。

御手洗の近所のお姉ちゃんも一緒に遊んでいて、皆、オモチャに夢中。オモチャに出るのは午後からにしようと言っていたら、11時20分頃になって皆、外に出たい由。時間もあまりないので、2号棟の下の広い道でちゃんの自転車や、ちゃんの三輪車、そして近所の子供の三輪車2台を御手洗が借りて子供達全員、ご機嫌で良く遊びました。

オムツが取れたばかりの君、御手洗がおしっこに1回成功、越智が3回試みましたが勝手が違ふとみえ、ダメでした。後に、西原が帰宅したとき「おしっこに行く？」と聞く、ニコニコ顔で「ウン」という具合でした。母親の威力を感じました。(後略)

★ 次号は、座談会、会員の紹介を掲載予定。(鳥野・越智・西原・御手洗・矢幅・吉川)

「あんふあんて」を
あんふあんてしよう！



今までの主な流れ

これからの「あんふあんて」を考えるために、今までの主な流れをみてみましょう。最近入会した方などにも何かの参考になるのではないのでしょうか。

- ▲初年度▽
75年3月 朝日新聞に「子持ち女集まれノ」の呼びかけが掲載された
7月 初会合をもった・東京吉祥寺「武蔵野公会堂」と銀座「スリーポイント」にて
8月 情報誌創刊号を発行
9月 住友海上火災と相互託児保険（損保）を契約
同 月刊誌「すてきなお母さん」（文化出版）との協力により、託児付き銀座ツアーズを企画主催
- ▲二年度▽
10月 参加費（150円）を徴収開始
11月 朝日新聞に「相互託児保険がつく

- ▲三年度▽
10月 参加費を300円に改定
同 新スタッフ（13名）で新年度スタート
12月 子連れパーティー開催・タカノ中野坂上店にて
77年1月 共同保育、ヘルパー制についてのアンケートを作成、回収
4月 第4回ミズスクール開催 テーマは「混乱する幼児教育」ゲストは矢野壽男さん
9月 保険料捻出のため、子連れ映画会「ねむの木」を主催
- ▲四年度▽
10月 保険契約再更新
同 新スタッフ（8名）により新年度

- 12月 経済的、人的バックアップをしてきた「レディース・ボイス社」が解散
76年3月 第1回ミズスクール開催 「恐ろしい合成洗剤」（ゲスト：柳沢文正さん）、「子どもなんてこわくない」（ゲスト：犬養智子さん）
5月 第2回ミズスクール開催 テーマは「母の日を考える」ゲストは犬養智子さん
7月 保険料捻出のためにベビー用品のアンケートを有志により行う
8月 第3回ミズスクールを千葉県こども園の国のプールサイドにて開催
同 第2回魔女コンサート託児協力
9月 保険契約を更新

- スタート
11月 国立婦人教育会館にて有志が合宿
78年1月 国立婦人教育会館への要望書提出
2月 「新幹線にベビーコーナーを！」の署名集めを開始
5月 新宿西口公園にて「新幹線……」の街頭署名集め
同 国鉄に要望書及び署名を提出

今年度を振り返りつつ 来年度へ向けて

(A) 具体的展開

▲情報誌について▽
書き手が広がって変化に富み、情報誌もひとつの出合いの場・媒体物であって、スタッフがリードしていくための物ではないことや、会員それぞれが創っていくのだということが少しずつ表われてきたように思います。もつと会員ひとりひとりが書く気がおきるような工夫・雰囲気・誌面づくりをこれからも心がけたいものです。グループ編集のページなども続けて期待していいですね。
雑多さの反面、ある程度の集中していく感じというものをどう感じましたか。今年はまだ強く打ち出さずにとスタッフは考えていたのですが、実際は「国立婦人教育会館」「国鉄ベビーコーナー」「共同保育考」とけっこうありました。一方向的にならずに盛り上

がりがあった、リードしつつも頼り切られるほどでなく、会員全体を感じながらもスタッフ各自の個性を出し、今かかえていることをやりつつ先を考える……これがスタッフにとって、いちばん難しいところですね。

又、今年もスケジュール的に余裕がなく、発行が遅れがちになってしまったことがとても気がかりでした。結局、誌面にもう一工夫足りない感じになってしまいました。タイトルや小見出し・文章・詩・イラスト・レイアウト等に余裕のないのがすげやうんですヨネ。スタッフの動き方を少し変えていかなければと思います。

▲企画・会合について▽

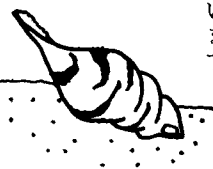
参加者が限定されてしまうような「ミズ・スクール」という形は今年はなく、何か会員が一つとなってやれるものが欲しいというところで、ベビーコーナーの署名集めや国立婦人教育会館への要望書というのが考えられました。来年度も引き続き、しぶとくやっていくべきだと思います。

会合などは、スタッフが編集でせいっぱいで余力がなく、どうも活発ではありませんでした。それらは、会合設定がギリギリになることや、参加への呼びかけが特にない等の点に出てしまっています。やりたい企画・会合もたくさんあるのですが、スタッフでやり切る限界がある以上、もっとみんなで創っていく形が必要です。定期的なスタッフでなくてもある時期だけなら手伝えませんか、グループ主催とかもいいのではありませんか。

▲広報・宣伝・広げ方について▽

マスコミへはこちら側からの積極的な働きかけをしませんでしたが、女たちのグループやミニコミへは初めてこちらから連絡をとりました。又、スタッフとしてはチラシ等をまだつくれないでいたのですが、グループで自主的につくっているところもあるようでした。又、会員の自主的なクチコミによる入会も増えてきています。これら、会員や各グループの動きをバックアップする意味でも、やっぱりもつと広くあんふあんてを知らしめ、会員を募集していく必要があります。マスコミ・ミニコミ・チラシ等、もう少し積極的に宣伝していくことを考えたいと思います。

▲グループについて▽



やっど、グループアンケートやハガキによって現状把握が少しはできるようになりましたが、もつとスタッフ・事務局とのコミュニケーションをはかる必要があります。又、グループのつながりも地域的に近いものどうし、や、やり方や問題点が似ているものどうし、経験豊富なグループとできたのグループ等さまざまなつながり方を積極的に推し進めたいと思います。さらに、グループをつくりたいという地域や、つくれるのではないかとという地域には、スタッフが後押しし、協力していくことも必要ではないかと考えています。

▲共同保育について▽

まず、以前回収し集計したアンケートのハウツー的な段階をまとめ、新しいこれからの人たちに申し送りをする必要があります。そして、今年度後半やってきた共同保育考のようなどざっぱな問題点の洗い直しと、それらの問題点の解決策を模索することです。例えば、子どもが成長してあまり手がかからなくなってしまう必要が薄らぐとか、第二子出産で手がかかるとかで、退会する人も出るようですが、これらもすべて、共同保育・預け合いのとりえ方がつかめていないこととからくるのではないのでしょうか。イージーに引込んでしまう形ではなく、又新しくつくる気でグループ等のやり方を変えていく形へと模索していきましょう。さらに、共同保育だけではいけないけれど、子育てにおける細かい疑問点をみんなで出し合い考え合っていくことができたかと思っています。子育てという、オムツを換えて……の時期だけと思うのは大まちがいです。年齢が上がればそれだけ肉体的労働的疲労は薄らぐけれど、もつと複雑に難しいカベの精神的疲労が大きくなってきました。そのカベにエネルギーをもつてぶつかるためにも、心の支えとなる人間関係がやっぱり必要になるのですから。

▲ヘルパー制について▽

共同保育の方へ思い入れが片寄ってしまったのではないかと反省がありました。わりと誰もがでてる形のヘルパー制というものをもつとちゃんとみつめてみる必要があるそうです。預け合いがポピュラーになっ

最近の風潮の中で、あんふぁんてなりの預け合いを確立しなくてはと思っています。自分の時間をもつためのヘルパー制だけでなく、もっと共同保育的志向の意味をもったものなどもありえるのではないですか。グループではできないけれど、何とかそのイメージに近いものを作りたいと思っています。人も多いのだからと思いたいです。より現実的で、より広がりをもっているといえます。

△事務局について▽

一応、やるべきことがちがうのですから、事務局とスタッフはちがうのですが、たまたま同じ人がやっているのと同じに思えてしまっている。ホントはもっと事務局としてやるべきことややりたいと思っていることが山積しているのですが、スタッフの動きのしなやかさを受けて手つかずです。誰か助けて！

△スタッフについて▽

今の形の子なしで週1度事務局へ来れる人という制約でもやれる人というのは、どうしても限られてしまいます。もっといういろいろな形でスタッフをできないだろうかと思っています。毎週でなくても月1度ぐらいだったら、ヘルパーしあつてできることをやるとか、家でもできることをやるとかの人も大いに歓迎です。もちろん、毎週子なしで来れそうだなという意欲あふれる新スタッフも期待しています。なかなか一挙に全体を見つつか、主体的に動くとかは難しいものですが、何か少しずつやりながらそういうことは

できていくのですから、「あんふぁんて」をあんふぁんてしていく熱意さえあれば、チームワークでやれるのではないかと思います。それにしてもつくづく、子連れで来れる空間が欲しいナァと思います。

△お金について▽

今のままでも何とか最低限はやっていけそうだけれど、やっぱり保険料分だけ不足しましたし、先を見ていくだけの余裕がありません。参加費以外の資金獲得を積極的に考える時期にきているように思います。人数的にもこのまましりすばみになってしまうのではなく、もう少し広げていくためにも資金が必要だといえます。

△保険について▽

今年度と同じ条件でそのまま再契約しているのではないのでしょうか。保険を使わせてほしいという小さな無認可保育所や、催しを主催するグループの問い合わせもくるようになり、せっかくの保険を活かすためにも、あんふぁんての趣旨を説明し全員の入会をということと協力をお願いします。

又、物に対する保障を考えてほしいという声もありますが、個人宅にしろ、公共施設にしろ、室内や家具等の消耗はかなり激しいのではないのでしょうか。保険という形にするか、あんふぁんてで積立てか何かするか、各グループで修理消耗費として実費処理するか等のいろいろな考え方があろうと思います。とにかく、来年度の検討すべき材料として取り上げていきたいと思います。

基本的方針

△今年度の場合▽

- a 「あんふぁんて」というワクを少しずつ広げる方向で
- b 「子育て」を通して女と女が、女と男が、つながる会に
- c ひとりひとりが、さまざまなやり方で、まわりを見ながら、あんふぁんてしよう
- d 「イキイキと自分を生きる」「人間関係を考える」「生活の中から」の3つの視点を手を広げず、幅広い表現で展開をイキイキとした情報誌づくりを
- e 運営はスタッフだけが担うのではなく、以上が今年度の基本的方針でした。一年度の方針というよりは、会の基本的な意味づけといった面も含まれてしまっていて、さて、今年度はどうだったかと問い返してみると、確実に具体的にやれたというのはいまありません。思いやるのは、方針の立て方がしぼりこんでなかったからとも思えます。a、b、c、d、どれも「あんふぁんて」の会の性格・特長・基本的姿勢として、これから先もずっともっていたいことといえます。しかしこれらも、スタートからの3年間でみんな何だか

んだ言いながら、やっとなり上げたといいたところなんです。でもやっぱり、もうちょっと具体的な年度方針が必要だと思いました。b のように、昨年これらの方針を検討している時に問題になったのは、男性会員のことでした。問題になった割には、今年度特に男性会員の入会希望もなかったのですが、そんなに焦ることはなかったのだけれど、一応基本的なことなので検討しておいてよかったといえます。

e はその前の年度の反省として出てきたもので、スタッフでもやり切れるくらいの入りの数にしようということ、中へ入ってからの展開を情報誌の文章だけでなく、もっと工夫をといたことでした。これは、要望書や署名等、割とできたかなという感じでした。

f はイキイキした自分であるには、イキイキしたあんふぁんて・情報誌であることだと考えたからです。その反対も必要ですが、今、さかんに試みているところですが、どうでしょうか。

g は前の年度でスタッフの数が多かった中で、スタッフだけで情報誌づくりや発送・会合設定等をやりたいという反省から出てきたもので、情報誌への投稿・参加という点ではよくなくなってきているように思います。ただ、運営の中でも誰もが関係している金銭的運営について、もう少しみんなの気持ち先へ先へと向いて欲しいナァと、私が私わなきやつぶれちゃうとそのくらいの気がまえていて欲しいナァと思うのです。

△来年度の基本的方針・姿勢について▽

年度方針の以前の問題として、あんふぁんての趣意書の中に、今年度の方針のa、b、c、d、を含め、趣意書をつくりなおすことを前提として考えたいと思っています。

その上で、来年度の方針としてのひとつの姿勢「みんなで作る」あんふぁんて「」を提案します。例えば「みんなで作る情報誌」であり、「みんなで作る金銭的基盤」であったりもするわけです。グループ運営などにしても、自分の参加していないグループのことや共同保育でも、そのグループがみつけた問題点や解決策は、そのグループだけのものではなく、みんなのものにすべく伝えてしまいうことなどもあります。これらをどうやって具体的に展開するかは、来期スタッフのうでのみせどころになります。もちろん、(A)、(B)、(C)で述べてきたことをふまえてですけれど、こうやってどうにかの提案があったら、どんなこまかいことでもけっこうですからお寄せ下さい。

△来年度のテーマ▽

この「みんなで作る」あんふぁんて「」の姿勢の中で、特に来年度のテーマとしてとり上げていこうと思うのが、「預け合い」と「女の自立」です。私たちは預け合いそのものが目的ではなく、子どもをかかえた女の人イキイキと生かされるようにしていこう、そのための前提として預け合いという方法を試行錯誤してみようということです。まずは預け合いをとかく一応の形にしていこうと夢中できましたが、ここいらで、預け合い

の部分も少し整理し、本来の女がイキイキ生きていることへも少しアタックをし始めたかどうかと考えています。まだまだ預け合いの部分からいえることが見えてきますし、女がイキイキ生きていること自体も見えてきていますが、新しく入会した人たちのためにも、これから入会する人たちのためにも、ひとつの「あんふぁんて風預け合い論」をつくる必要性を感じます。又、無我夢中でやってきた子どもが、ホッと一段落着いて、多くの人がぶつかっている「自立」ということではないでしょうか。ひとりひとりが胸の中で悶々としているけれど、あまり口に出しては言わず正面からぶつかるとは言いようです。今まで形づくってきた「自立」ということをとらえきれずにいるのではないのでしょうか。「自立」というより「イキイキと生かされる」ということで考えてみたいと思うのです。あんふぁんて風イキイキ論「をつくれたらと思います。みんなで作る会、ぶつけ合っている会、いけません。

★ ★ ★

今まで述べてきたのは、今年度スタッフからの提案です。やってきた中から来年度のことを考える材料をいっぱいもっているのですから、たたき台として出しているわけです。同封のアンケートに御意見をお寄せ下さい。8月末がメドですが、なるべく早くネ。



いいたい
ほうだい



△忠告ⅡV

葛飾区

原動機付自転車(50ccのバイク)に子供を乗せて走るのは交通違反になるので、これから子供連れのバイクを走らせないで、くれぐれやめた方がいいですよ。ポリスマンにつかまされます。バイクに子供用の椅子をつける事は違反ではないのです。CMでは、一言も子供を乗せて走ることの是非に触れていないでしよう。(「おくさま」に子供はつきものと思っているくせに。)私の場合、2人乗りのときは1度だけですが、3人乗りのときは(「おんぶもだめ」始終呼び止められます。だから特に交番のあるところは避けて通ります。自転車は、よく盗まれるし、安定性を欠くし、子供2人はきついので、やっぱりバイクと離れたくないのです。この現実はどう対処するべきか、あきらめる以外、ないのでしょうかね。ただ今も、つかまった直後で、ガツクリと肩を落としています。

△地震その後とベビーカーに一言V

宮城県柴田郡

仙台一帯は地下が岩盤なので地震があっても大きな被害にはならないと、こちらへ来た時につれあいから聞かされていたのですが、今回の地震ばかりはひどい災害をもたらしました。幸い私の方は皆無事で、本棚の上に重

ねてあった本が落ちたり、石油カンがひっくり返って流れ出てしまったりということはありましたが、破損するものもなく(これは不思議でした)、大きな地震のわりには少ない被害でした。電線、水道(ガスはプロパン)は地震とともにストップしてしまい、まだ1歳にもならない子どもをかかえて、とたんに困ってしまいました。6月14日には全面的に復旧し通常の生活に戻った次第です。

今回の地震では死者27名ということでしたが、その半数以上がブロック塀によるものです。私自身も先週、近所のブロック塀が倒れ小6の女の子が下敷になるのを目撃しました。ものの骨を折って手術しなければならぬほどの重傷だったそうです。つくづくブロック塀は恐ろしいと思いました。子どもにはいざという時にどう行動をしなければいけないのかというのを、よくよく教えないけませんね。又、地震によって電気も水道も使えなくなってしまう時には、何と我々の生活とはもういものかと思っていました。すべてが便利、便利でまされていくけれども、その裏には大きな落とし穴があるのだということをしっかりと心にとめておかなければならないと思います。いざというとき、いざという時のために、常日頃から備えるという古く新しい教訓をばかにはできません。

話は異なりますが、「ベビーカー」使用について一言。私は賛成の立場に立つつもりです。オムツやミルク・お湯などをバッグにつめ、その上にズッシリと重い子どもをおんぶして座れない時には立ったまま車内での時間を

△あんふぁんて6月号・レポートを読んでV

目黒区

「子育てとベビーカー」の新聞記事は、私も読んで反対者の「子育てに特権はない」方の意見だったので、あんふぁんて、や鈴木八重子さんがベビーカー賛成なのは意外でした。反対派が言っているように子育てママであらうとただの社会人であることを自覚、世の中のルールに従って生活するのは当然のことだと思っています。

ベビーカーは場所もとるし、靴下もひっかけられたり他の人にとっても迷惑になります。母親にとっては、2歳すぎの、もうちゃんと歩ける子どもまで座らせている人を見かけます。しかも、人ごみの中、よごれた靴をはかせたまま……。ベビーカーに限らず、バスや電車の中では靴をぬがせてから子どもを座らせる。電車の中で、ウロウロ、子どもを歩かせない。等

母親が、もう少し、子ども連れてくるのだから、と、気を使うべきではないかしら。子どもを、そっこので、母親同志、おしゃべりに夢中になっているなんて光景よく見かけます。あんふぁんてに入っている、入っていないとか、そんなこと関係ないと思います。権利ばかり主張しないで、一度、相手の立場に立ってみる事も必要ではないでしょうか。

(スタッフより、情報誌で取り上げたから、あんふぁんても賛成だというところ方は、ついそう思いがちではあるけれど、ちょっとまとはずれです。問題提起はするけれど、答えはそれぞれが出すのですから。)

△「あんふぁんてレポート」を読んでV

米子市

この頃の情報誌、様々な人の考えなどが載せられ、とても興味深く読んでいます。あんふぁんてレポート中の電車でのベビーカーのこと。2年間ほどアメリカに住んでいたので、その時の経験から言いますと、日本人は他人に対して冷たい、即ち思いやりがないんだなあと感じます。アメリカでしたら、病院に子供をだいていくと、ドアをさっとあけてくれる人がいたり、子供連れで郵便局に小包を持っていくと、誰ともなしに小包を郵便局まで持っていくと、誰ともなしにそれは山の手線にベビーカーで乗りましたが、別に何とも言われず、時には男の人が階段の所でベビーカーを上まであげてくれたりしていました。この記事を読んで驚きました。手助けというものは要求すべきものではないので、世間に訴えるには直接言うより、やはり今の母親がどんな暮らしをして何を悩んでいるのかを訴えて理解してもらう方がよいように思います。それにしても同じ女性の側から子育ては、全ての母親が責任を負っている、といった考えを聞くと、個人主義の冷たさを感じます。家の中にいてもひとり何やかやと動きまわっているのに、社会に出てもすべて自分でやれというのは酷だなあというのが実感です。子育ては親だけのものじゃなくて、次代を担う存在としてもっと社会全体で関与してもいいことじゃないのかなと思います。母親だけでは背負いきれない問題がたくさんありますね。

過します。それでも、それをあえてやらなければならぬ時があるのです。そんな時ベビーカーがあれば便利だし、美だと思いは甘えなのではないでしょうか。むしろベビーカー使用はラッシュ時は避けることは当然ですが、ベビーカーは危険、おんぶやだっこで人に迷惑をかける方法をとれ、人に助けてもらうことは甘えだということは、結局、子供を女を家の中に閉じこめてしまうことなのではないかと思えます。又、子育てに特権なしの人達の反対意見の中に、私は強者の論を感じてしまいます。今の世の中のあらゆるものが子どもや老人、手や足、目や耳の不自由な人達、そして妊婦や子供達の女達にとって、暮らしにくい状況になっているというところを、子どもを生み育てるというところを通して私達ももっと感じるべきだと思います。同じ子供持ちでも、いわゆる強者の論理で物事をとらえる人達がそんなに多いのかと私は驚いてしまいました。このベビーカー使用と車イスの使用の問題を重ねて考えてみました。車イスを使って自由に外に出たい、何でも見たい、知りたい、そんなごく当然の要求をおさえつけているのが駅の改札口であり階段であり、……世の中全体のしくみです。それでもあえてそれをしようとすると、車イスは危険、他の乗客の迷惑になる、他の人の手をかりてまで車イスを持ち運びしようとするのは甘えだ……とかといういろいろなまさがおきます。

それはやっぱり、おまえ達は家にいろという強者のごう慢さだと思えます。この問題とベビーカー使用禁止の問題は根が同じではないでしょうか。

図書コーナー

△魔女の論理V

一エロスへの渴望

駒尺喜美著 エポナ出版

一昨年の「魔女コンサート」に参加した人は記憶しているだろうが、小西綾さんと中山千夏さん、そしてこの本の著者駒尺さんとの3人の歯切れのよい会話はおもしろかった。あんふぁんての会員でもある。

物事をじっと見据え、充分過ぎる程自分の中で発酵させたものを言葉にしている強さと明解さと、そしてやさしさが漂っている。瀬石、荷風、岡外、高太郎、五木、吉屋信子などの作品を題材として女の置かれている状況を論じているので、諸作家の作品を著者の視点から読み直してみるのもいいと思います。(横浜市)



情報コーナー

●あんなに歌劇(?)をつくってみませんか? 子連れで一丁スカットとおもしろい芝居をつくってみませんか!

8月7日(月)1時~4時

阿佐谷出張所2階会議室(中央線阿佐谷駅北口3分、西友ストア裏)

連絡先

●携帯用ベビーカーを近くの方、ゆずって!

編集部から

●はがき一枚の声にしませんか?

終戦から33年。私達の中で戦争を語れるとしたら何でしょうか? そして両親から年配者からどんな体験を伝えてもらえてるでしょうか? もし戦争について父親・母親と語ったことが無いとしたら今、この時にあなたから聞いてみるべきでしょう。いろんな体験・体験談から「あなたの戦争観」を、はがき一枚にまとめて事務局まで送って下さい。

●グループ編集のページをやってみようという返事のきたのは次の7グループでした。北鳥山グループ、北九州グループ、富田林グループ、山形グループ、南神奈川グループ、西荻グループ、多摩グループ、御期待下さい。

事務局から

●前号でも書いたように、来年度の保険料12万円(予定)が足りません。各グループで、バザーとか映画会とか企画し、一部カンパをおねがいしたいのです。是非検討してみてください。スタッフでも検討中です、次号に。

●まん中のページにはさみこんである来期へ向けてのアンケートは、全国総会等が開けないので、その代わりとなる重要なものです。書けるところだけでけっこうですので、必ず返送して下さい。期限は8月末日です。特に意見のある方はなるべく早く返送して下さい。これらアンケートの意見により、今月号掲載の提案等を検討・修正し、9月の交流会で再提案し、検討・決定し、9月号にその決定を載せる予定です。

●今月は9月までの払込みがまだの人に、いっせいに払込用紙を同封しました。前納の原則が遅れがちです、速やかに納入を。

●グループの連絡先変更。南神奈川グループ

武蔵野グループ

●ベビーカーの署名は続行中ノ北九州グループでは駅前での街頭署名を敢行、何と一挙に500名分も。これにつづくグループはないかな? 国鉄からの返事はまだ来ないので、国鉄さんも料金値上げ・接待ゴルフ禁止とお忙しいようです。

スケジュールメモ

●8月7日(月) 1時~4時

阿佐谷出張所(中央線阿佐谷駅北口西友ストア裏)

芝居をつくらうノグループ(連絡先)

★8月26日(土)27日(日)(日中参加のみ可)

「でいんだんどん」(西武新宿線田無駅バス5分)

★9月3日(日) 1時~4時半

9月交流会(ナンデ働くの?)

千駄谷区民会館(山手線原宿駅坂下口下車)

9月交流会(来期案決定ノ)

★入会申し込みは切手300円分を同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。

宛先は表紙上段に記載。

★参加費は1ヶ月300円、なるべく6ヶ月以上まとめて郵便局で。払込先は表紙に。

★事務局の電話受付は原則として月1金の1~3時ですので御協力を。

